

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

平成17年度発生予察注意報第3号について（送付）
このことについて、平成17年度病害虫発生予察注意報第3号を発表しましたので送付
します。

注意報

平成17年度発生予察注意報第3号

平成17年9月29日

熊本県病害虫防除所長

農作物名	キュウリ、メロン
病害虫名	メロン黄化えそウイルス（MYSV） 病名：キュウリ黄化えそ病、メロン黄化えそ病 媒介虫：ミナミキイロアザミウマ

1 予報内容

- (1) 発生地域 熊本・鹿本地域およびその周辺地域
- (2) 発生時期 10月以降
- (3) 発生程度 多

2 注意報発令の根拠

- (1) メロン黄化えそウイルスは、本県では熊本・鹿本地域の冬春キュウリで平成16年11月に、はじめて発生が確認された。発生地域で根絶対策をとったが、その後も発生が続き、夏秋キュウリでも発生が認められた。
また平成17年6月下旬に鹿本地域、9月中旬に熊本地域のメロンでも発生が確認された。今後、既発生地域における発生ほ場の増加および発生地域拡大の恐れがある。また、高知県で本ウイルスのスイカでの発生が確認されているため、スイカでの発生の恐れもある。
- (2) 9月5～6日の台風14号襲来時にキュウリやメロン栽培ハウスのビニール等が除去され、ウイルスを保毒したミナミキイロアザミウマがハウス内から野外へ広範囲に分散したと考えられる。
- (3) 9月22日福岡管区気象台発表の九州北部地方3ヶ月予報によると、10月の気温は高く、11月、12月の気温は平年並か高い予想で、媒介昆虫であるミナミキイロアザミウマの増殖に適している。

3 防除対策および防除上注意すべき事項

栽培を終えるほ場では

施設内にいるウイルスを保毒した媒介虫が野外に飛び出すと、周辺のウリ科作物や今後栽培されるウリ科作物にウイルスを伝搬する。地域内でウイルスを蔓延させないために、栽培終了時にはハウスを密閉して媒介虫が飛び出さないようにし、媒介虫が死滅してから残さを片づける。なお、ハウス密閉処理ができないほ場は、栽培終了時まで媒介虫の防除を徹底する。

これから栽培を始めるほ場では

- (1) 育苗床、本ぼには、青色粘着トラップを設置し、媒介虫の早期発見に努める。
- (2) アザミウマ類の防除は育苗期から徹底し、本圃に寄生苗を持ち込まないようにする。また定植時には粒剤を施用する。なお、薬剤散布は発生初期から行い、薬剤抵抗性の発達を避けるためローテーション使用する。
- (3) 薬剤による防除効果を高めるために、防虫ネット(0.8mm目以下)を施設開口部に設置したり、光反射シートを施設周辺に敷設し、媒介虫の侵入を抑制する。なお、物理的防除のみでは侵入を完全に阻止することはできない。
- (4) ほ場周辺及び内部の雑草は、媒介虫の生息・増殖場所となるので、除草する。
- (5) 発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取りほ場外に持ち出し埋没処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。なお、抜き取る前に薬剤防除を行い、寄生している媒介虫が分散しないようにする。

<参考 : ミナミキイロアザミウマの主な寄主植物>

ウリ科野菜：キュウリ、メロン、スイカ、カボチャ、トウガン、ニガウリ
 ナス科野菜：ナス、ピーマン
 花き類：キク、ホオズキ
 雑草：イヌビユ、イヌガラシ、カラスノエンドウ、ヨモギ、アレチノギク、オニタビラコ、ノゲシ、スベリヒユ

<参考 : ミナミキイロアザミウマの防除薬剤> (熊本県病害虫防除指針より抜粋)

平成17年9月21日現在

キュウリ
粒剤

薬剤の系統	商品名	使用量	使用時期	使用回数
ネオニコチノイド系	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	定植時	1回
	ベストガード粒剤	1~2g/株	定植時	1回

散布剤

薬剤の系統	商品名	使用濃度	使用時期	使用回数
有機リン系	ボルスター乳剤	1500~2000倍	収穫前日まで	3回以内
ピレスロイド系	アグロスリン乳剤	1000倍	収穫前日まで	5回以内
	アドマイヤー水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ネオニコチノイド系	ベストガード水溶剤	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン水溶剤	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内
I GR系	カスケード乳剤	2000~4000倍	収穫前日まで	4回以内
その他	アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	ハチハチ乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで	2回以内
生物由来	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	2回以内
有機リン系・カーバメート系	マラバッサ乳剤	1500~2000倍	収穫前日まで	3回以内 ¹

スイカ
粒剤

薬剤の系統	商品名	使用量	使用時期	使用回数
ネオニコチノイド系	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	定植時	1回
	ベストガード粒剤	1~2g/株	定植時	1回

散布剤

薬剤の系統	商品名	使用濃度	使用時期	使用回数
有機リン系	スブラサイド水和剤	1000倍	収穫3日前まで	5回以内
ネオニコチノイド系	アドマイヤー水和剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ベストガード水溶剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内
	モスピラン水溶剤	2000~4000倍	収穫3日前まで	3回以内
I GR系	アタプロン乳剤	4000倍	収穫14日前まで	3回以内
	カスケード乳剤	2000~4000倍	収穫7日前まで	4回以内
その他	アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内
	ハチハチ乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで	2回以内
生物由来	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	2回以内
有機リン系・カーバメート系	マラバッサ乳剤	1500~2000倍	収穫前日まで	4回以内 ³

メロン
粒剤

薬剤の系統	商品名	使用量	使用時期	使用回数
ネオニコチノイド系	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	定植時	1回
	ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1回

散布剤

薬剤の系統	商品名	使用濃度	使用時期	使用回数
有機リン系	スブラサイド水和剤	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
ネオニコチノイド系	アドマイヤー水和剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ベストガード水溶剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内
I GR系	アタプロン乳剤	2000~4000倍	収穫14日前まで	3回以内
	カスケード乳剤	2000~4000倍	収穫7日前まで	3回以内
その他	アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで	2回以内
生物由来	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	2回以内
有機リン系・カーバメート系	マラバッサ乳剤	1500~2000倍	収穫前日まで	3回以内 ²

- 1 : マラソンを含む薬剤は3回以内、B P M Cを含む薬剤は3回以内。
- 2 : マラソンを含む薬剤は3回以内、B P M Cを含む薬剤は4回以内。
- 3 : マラソンを含む薬剤は6回以内、B P M Cを含む薬剤は4回以内。
- 4 : 農業使用にあたっては、ラベル等で使用方法、使用時期、総使用回数等を確認する。